

読み聞かせハンドブック

～ 幼稚園・保育所・学校などで
大勢の子どもたちに読む方へ～



府中市立図書館

子どもにとっての読み聞かせ

よい絵本には、豊かな言葉や魅力的な絵がつまっています。子どもたちは、主人公に共感したり、未知の世界に思いを寄せたりしながら、心を解放して絵本を楽しみます。

特に、仲間と一緒に味わった楽しい読み聞かせの体験は、読んでくれた大人への信頼感と本に対する親近感を子どもたちの心に残してくれるでしょう。

読み手が心がけたいこと

- ・ 子どもに本を読み聞かせることは、本の世界の扉を開くお手伝いをする事です。優れた本の中から読み手が楽しめるものを選びましょう。
- ・ 聞き手の子どもと本が主役です。教訓を押し付けたりする場にならないようにしましょう。
- ・ 公共の場であることを意識して、著しく宗教色の強い本や思想的にかたよりのある本はさけましょう。
- ・ 子どもたちには様々な個性があり、好みも興味も違います。季節や本の組み合わせを考え、読む仲間と相談して、事前にプログラムを組みましょう。
- ・ 大勢の子どもたちの前での読み聞かせは、家庭での読み方とは別の注意が必要です。しっかりと練習して本番に臨みましょう。
- ・ おはなし会の記録をつけ、次回に活かしましょう。
- ・ 読み聞かせをしたからといって、何かの成果がすぐあらわれるものではありません。長い時間をかけて育つ「よきもの」を待ちましょう。

絵本の読み方のチェックポイント

(態度)

- 聞き手が全員こちらを向いてから読み始めているか
- 子どもに媚びたり(日常会話をわざとらしく入れたり持ち物をほめるなど)、威嚇したり(お母さんに言いつけるよ、お行儀が悪いと出すよなど)していないか
- 目配りは適当か
- ・聞き手がついてきているか確認しながら読み始める
- ・ストーリーに食いついてきたら読み手の顔が邪魔にならないようにする。始終ニコニコしているとおはなしの世界の緊張が保てない
- ・赤ちゃんは読み手と絵の両方を見るので、しっかりと見返すと安心する

(本のもち方・めくり方)

- 表紙をしっかりと見せているか
- 本の綴じ目をしっかりと持っているか、本が傾いていないか、揺れすぎないか
- 絵をさえぎらずにスムーズにページをめくっているか
- 読み終わった後に表紙を見せているか、表裏一枚絵のものは広げて見せているか



(読み方・語り方)

- 明快な発音で聞き取りやすい読み方か、イの口の形(甘ったれた発音)で話していないか
- 声は十分に聞こえる大きさか
- 速すぎないか、間延びしていないか
- サ行がはっきり聞こえるか
- 語尾が消えていないか
- 語尾を引っ張る癖がないか
- 分かち読みになっていないか(ただし、赤ちゃん絵本は分かち読みがよい)
- 「はじまり」と「おわり」は心もちゆっくりと読んでいるか
- 指差しは適当か、多すぎないか、はっきりとしているか
- 演じすぎではないか(身振り、手振りが入っていないか)
- 不必要な説明や対話を入れていないか

『読み聞かせに向く絵本のリスト』について

府中市立図書館では全館で、『読み聞かせに向く絵本のリスト』を配布しています。また、児童担当職員が本選びのお手伝いをしますので、お気軽にご相談ください。

